

# 須木中学校通信 第14号

平成27年9月28日発行 文責 寺原

# 郷 俣

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、  
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

## 「秋深し、と成りは…」

天気によって暑かったり寒かったりですが、確実に秋が感じられる昨今となりました。十年ぶりに復活した須木地区運動会も無事に終わり、いよいよ何をやるにもいい季節になりました。

時々思いますが、「読書の秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」「豊穡の秋」など、「〳〵の秋」という言葉はたくさん聞きますが、気候的には似ているのに、「〳〵の春」という言葉は意外に少ないような気がします。

「天高く馬肥ゆる秋」という中国の言葉があります。一般的には秋の素晴らしさをいうことばと解釈されていますが、その裏には、冬になると北方騎馬民族がやってきて略奪が始まるぞという緊張や警戒の言葉としての意味があるそうです。

秋になると春にはない、説明できない緊張を感じるの、来るべき厳しい冬の到来を自然に感じるからかもしれませんね。

さしずめ子ども達にとっては、「勉強の秋」が第一にくるのでしょうか。(きてほしいですね) 「夜更かしの秋」「ジャンクフードの秋」は避けたいものです。

体育大会では「スポーツの秋」を満喫し、今度は「文化の秋」で文化祭がやってきます。息づく間もないと思いますが、一つ一つを確実にやっつけていきましょう。

みんながやるとはともかく、一人一人にとっての「〳〵の秋」はみんな違うと思います。

自分らしい言葉を「〳〵」に入れて、このいい季節を充実させましょう。

## 《「にしろろ定住自立圏フォーラム」に出て》

9月24日に小林市文化会館で、「にしろろ定住自立圏フォーラム」がありました。「にしろろ定住自立圏」は、広域連携による地方創生のために平成24年に形成されたものです。

最初に、NTTオープンイノベーション事業創発室部長の吉田 淳一氏が、地域ブランドの創生と地域興しの観点からみた、近未来のICTの可能性を分かりやすいプレゼンテーションを使いながら話して下さいました。キーワードは「情報発信力」と「コミュニケーション能力」。

技術が一人歩きするのではなく、人間の血の通った利用のしかたを考えることで、いろいろな形で地域の活性化に役立つツールになればいいと話して下さいました。プレゼンの中にももちろん、あのフランス語にしか聞こえない西諸弁をしゃべる方も登場しました。

後半はその吉田氏がコーディネーターとなり、肥後市長、村岡市長、日高町長のパネルディスカッションがありました。

その中で、「消滅可能性都市」という言葉が出てきました。これは2010年から30年間の人口を推計した場合、出産可能年齢の95%にあたる若年女性人口(20~39歳)が現在の5割以下に減少すると考えられ、行政や社会保障の維持、雇用の確保などが困難になるとみられる自治体のことです。

試算では、政令指定都市の行政区を含む全国1800市区町村のうち、49.8%にあたる896自治体が消滅する可能性が高いという結果が出たそうです。

残念ながら、小林市、えびの市、高原町もその中に入っています。3人の首長さんが、異口同音に西諸島の未来の姿を描きながら、市や町を越えて魅力ある地方創生に取り組んでいきたいと話されました。

会場に多くの参加者が集う中、盛会のうちに終わりました。

## 《3年生学力診断テスト状況》

回	本校平均	地区平均	地区との差
1	332.6	281.8	+50.8
2	324.9	273.5	+51.4

第1回と合わせて、3年生の学力診断テストの結果をお知らせします。全体的にはよい成績で、順位も上位をキープしています。

進路選択の幅を広げるという意味でも、今後も子どもと一緒に頑張りたいと思います。家庭でのバックアップもお願いします。